

緑の相談所だより

Nº105

発行日
編集・発行

平成19年4月1日
財団法人旭川市公園緑地協会 緑の相談所

講習会のご案内

『鉢花の植替えと春、夏の管理』

と き 平成19年4月15日(日)

PM 1:30 ~ 3:30

講 師 緑の相談所 相談員 伊藤 征夫

『庭木の種類と管理』 ~移植と剪定~

と き 平成19年4月22日(日)

PM 1:30 ~ 3:30

講 師 緑の相談所 相談員 石川 敏雄

『楽しい家庭園芸』 ~花と野菜~

と き 平成19年5月13日(日)

PM 1:30 ~ 3:30

講 師 緑の相談所 相談員 芝山 一雄

『ミニ盆栽をつくってみよう』

と き 平成19年5月27日(日)

PM 1:30 ~ 3:30

講 師 旭川ミニ盆栽愛好会 長谷川 八郎 さん

教材費 1,000円

『洋ラン植替え実践講座』

~ 洋ランの植替えをしてみませんか? ~

と き 平成19年4月29日(日)

AM 10:00 ~ 12:00 (随時実習)

PM 1:30 ~ 4:00 (随時実習)

講 師 旭川蘭友会会員の皆さん

代表 旭川蘭友会 会長 谷口 忠一 さん

植替えに必要な鉢等の経費は実費負担となります。

要予約です。

定員は全て50名です。定員になり次第募集は、締め切らせていただきます。お申込みはお早めをお願いいたします。

場所は旭川市緑の相談所(旭川市神楽岡公園内)緑の学習室です。

お申込み・お問合せ・ご相談は、旭川市緑の相談所(0166)65-5553 まで。

展示会のご案内

『野の花写真展』

と き 平成19年4月1日(日)~25日(水)

AM 9:00 ~ : PM 5:00

『春の洋ラン展』

と き 平成19年4月27日(金)~29日(日)

AM 10:00 ~ : PM 4:00

作品提供 旭川蘭友会の皆さん

『温室の花写真展』

と き 平成19年5月1日(火)~22日(火)

AM 9:00 ~ : PM 5:00

『ミニ盆栽展』

と き 平成19年5月25日(金)~27日(日)

AM 10:00 ~ : PM 4:00

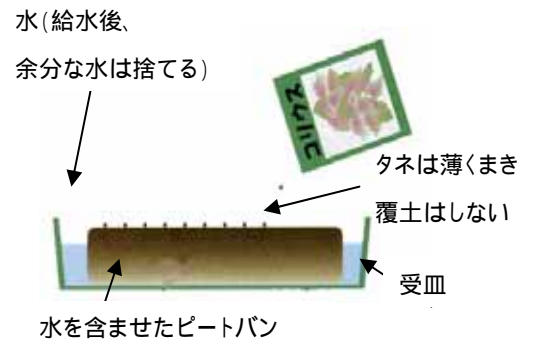
作品提供 旭川ミニ盆栽愛好会の皆さん

花の苗を育ててみよう！ ～ コ リ ウ ス ～

日なたでも半日陰でも良く育ち、コンパクトでカラフルな草姿が美しく、初夏のお庭が華やぎます。

種まき

発芽適温は高温（20～30℃）で発芽日数は5～7日程かかります。タネは小さく好光性なので、ピートバンにまくと容易です。種まきは室内の半日陰のところでいい、タネはバラまきし覆土せず、水は受け皿にいれ、底から吸わせます。発芽したら温度を保ち窓辺（50％位遮光）に置いて管理します。タネは混合種の方が種類も多く楽しめます。



育苗

発芽し本葉が4～6枚になったら、6～7.5cmポットに植替えます。用土は赤玉土6、ピートモス4の配合土を使い、同じく窓辺で直射日光を避け（50％位遮光）管理して下さい。植替え2週間後くらいから、週に1回1,000倍程度の液肥を与えます。

（水は多めに与えて育てます。）



その後の管理と定植

晩霜の心配がなくなる6月までは室内やフレーム内で育ててください。

定植は強い日差しが当たらない半日陰のところで、乾かしすぎないことが栽培のコツです。チッソ肥料の与え過ぎも葉色を悪くする一因です。また、花穂が上がり出したら摘み取るようにすると、長く葉色を保つことができます。

プランターやハンギングバスケットの栽培が容易なのでぜひ挑戦してみてください。

栽培カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培												
早まき栽培												

□ 種まき — 育苗・育苗 ■ 定植 ▨ 発色

展示室の植物たち

マダガスカリエンシス（和名 タビビトノキ）

バショウ科タビビトノキ（ラベナラ）属

マダガスカル島原産で、現地では木質の幹が大きいもので20メートルにもなるそうです。葉がきれいに2列互生して扇状に配列します。葉柄が長く、その基部の葉鞘部に雨水が溜り、古くから旅行者の飲用に供せられていたということが「旅人の木」の由来と言われています。種子が食用にされ、木質の幹が住民の建築用材に利用されています。

当温室には2年前に4本の幼木が植えられましたが、まだ1メートルあまりの大きさです。それでも列状の葉柄が扇状になってきて、タビビトノキの容姿を整えつつあります。

春に咲くツツジ

エゾムラサキツツジ

ツツジ科

長い間、雪に閉ざされていた北国にもフキノトウや、フクジュソウの花が咲き始め、やっと遅い春が訪れようとしています。キタコブシが早春に他の樹木に先駆けて清純な香りのある白い花を咲かせる頃はまだまだ寒さが残っています。

4月末頃から家庭の庭や公園、街路樹などの樹下ではエゾムラサキツツジが紅紫色の花を開き始めます。花は枝頭の数芽から出て、一芽一花短柄の先につきます。

高さ2m前後の半常緑の低木で葉は互生し、やや革質です。枝先につく、1～数个の花芽からそれぞれ1個の花を開かせます。花は紅紫色で径は2.5～3cm。日本では北海道のみに分布し、日高から東部及び、北見地方の岩石地に特に多く自生しています。留辺蘂町恩根湯温泉の大群落は有名でエゾムラサキツツジの日本一の自生地になっています。我が国の野生種の中で、最も早く開花するツツジです。



ムラサキヤシオ

ツツジ科

エゾムラサキツツジに次いで早く開花するムラサキヤシオは「紫八染」と書き、「紫色の染料に数回つけて染め上げた」という意味を持っています。高さは3m前後で、葉は枝先にやや輪生状に集まってつき互生します。ひし形の広いたまご型で刃先は尖っています。表面に短化、下面中肋の下部に白毛がつきます。

花は開葉前に、頂枝の花芽より径4cmの花を2～3個、横向きにつけます。濃桃色又は、紅紫色の非常に美しい花でツツジの女王といわれ、オオヤマザクラ（エゾヤマザクラ）よりやや遅れて開花します。北海道及び、本州北部、中部の日本海側の山地に自生する落葉低木です。

春に咲く野草

フクジュソウ（福寿草）

キンポウゲ科

温帯の落葉樹林下に生える多年草です。根茎は太く短く多数の根を出しています。高さ15～30cm。花は黄金色、径3～4cm、数个のガク片と20～30個の花弁があります。

春早く咲き、鉢植えにして、正月に咲かせることも出来ることから、元旦草とも呼ばれて、おめでたい花とされています。



4月の園芸作業

1 草花・鉢花類

夏花壇用のアサガオ、アスター、マリーゴールド等の草花の種子を上旬には鉢等にまき、苗づくりの準備をしましょう。また、冬越ししたサフィニア等の花壇用の草花は挿し芽で苗をつくってみましょう。

フクシャ、ハイビスカス、ランタナなど徒長枝が乱れた鉢は間引きや切り戻し剪定をします。ブーゲンビレアの花後は花の着いた枝先を切り、明るい窓辺に置き、水はしおれたらやるようにしましょう。

アザレアは根の生育が旺盛なので樹形を整える剪定をした後、固まったフェルト状の根をしっかりと崩してほぐした根を3分の1程切り植替えしましょう。

クジャクサボテンの花が終わった株やこれから咲く株に水と肥料を十分与え、茎から出た新芽は摘み取りましょう。

シャコバサボテンは先端の茎を2～3節摘んで全体の樹形を整え、摘んだ茎節は挿し木しましょう。

クラッスラ(通称金の成る木)は窓辺の日当たり良い所で水やりし1000～1500倍の液肥を週1回与えます。

シクラメンの花が終わっても15以下の涼しい所に置き、葉を落とさないよう水と肥料を与えます。

サボテン類は日の当たる窓辺に置き、水と肥料を与えましょう。

2 洋ラン類

カトレア、コチョウラン、デンドロビウム、オンシジウム、マスデバリア等の着生種は植替え直後の株に水を与えません。霧吹きだけで3週間程養生させ根の傷み回復と発根を促し、肥料も発根するか新芽が出るまで控えましょう。

植え替える鉢はウイルス病等の予防の為出来るだけ古い鉢は使わないようにしましょう。

サギソウ等の球根を植付ける前に殺菌剤でしっかり消毒しましょう。

貯蔵していたタイリントキソウも水ゴケ等の用土で植付けましょう。

5月の園芸作業

1 草花・鉢花・球根類

地面が乾いたら石灰を1㎡当たり100gまきます。その後、有機質(堆肥、腐葉土、ピート等)を1㎡当たり5～6ℓ散布してスコップで出来るだけ深く耕しましょう。2週間程経ってから植付けましょう。

雪融けと共に芽を出すプリムラ、ガウラ、シバザクラ等の宿根草、球根にはなるべく早く油粕と化成肥料を与えましょう。

5月下旬にはグラジオラス、ダリア、リアトリス、カンナ、カタバミ等の球根を花壇やプランターに植えましょう。

室内にあったアマリリス、ロドヒポキシス(アツガク)等の花が終わったものや咲かないものも日当たりの良い場所で育てましょう。

クロッカス、チューリップ、スイセン等は花を楽しんだ後、地下の球根が来年も立派な花を咲かせるために花柄を摘みましょう。なお、チューリップを切り花にする時には葉を1枚残して切りましょう。

クジャクサボテン、シャコバサボテン、アロエ、クラッスラ等の多肉植物やサボテン類は戸外の日当たりの良い場所で水やりや肥料を与えましょう。(晩霜に注意して急に戸外に出さず馴らしてから)

2 洋ラン類

植替えの必要な鉢は急いで植替えましょう。

新芽や根が伸びてる株は1000～2000倍の液肥を月3回程与え、水やりは3日に1回はたっぷりと与えましょう。

戸外の栽培管理は夜間の最低温度が13～15に安定してから出しましょう。

シンビジウム、デンドロビウム、マスデバリア等は中旬過ぎから晴天の日のAM11～PM2時頃まで戸外に出し日光に当て置き肥を始めます。なお、徐々に日光に馴らすため遮光(50%)ネットをしましょう。

水やりにはまだ冷たいので水道水を直接与えず、1日汲置きしたものを与えましょう。